



## < 11月2日(月) 全校朝会の校長の話(校内放送) >

おはようございます。今日は美味しいもののお話をしましょう。秋になっていろいろと美味しい野菜や果物が出回るようになりましたね。これは何でしょう。そうです。サツマイモです。皆さんはサツマイモは好きですか。焼き芋、大学芋、スイートポテト、天ぷらなどサツマイモはどんな料理にしても、とてもおいしいですね。サツマイモは、江戸時代に中国から沖縄や鹿児島に伝わったのが始まりとされています。このサツマイモにはいろいろな呼び方がありますが、13里と言う呼び方もあります。どうしてサツマイモが13里なのでしょうね。

まだ日本であまりサツマイモが食べられていなかった頃のことです。焼き芋屋さんが何とかしてサツマイモを売ろうと考えました。栗も秋の美味しい食べ物です。栗はその頃よく食べられていました。そこで焼き芋屋さんは、よく食べられている栗よりもっと美味しいものがあるよという意味でこんな言葉を考えました。「くりよりうまい」さてこの後に入る言葉は分かりますか。ヒントは足し算です。「くりより」を数字で表すと「9里4里」となります $9+4$ はいくつでしょう。そうですね。13です。焼き芋屋さんがこれを思いついて「9里よりうまい13里」と言って焼き芋を売ったところ、本当に美味しかったのでたくさんの方が焼き芋を買ったのだそうです。その話からサツマイモのことを13里とも呼ぶようになりました。面白いですね。

さて、今はコロナでとてもたいへんですが、江戸時代にもたいへんなことがたくさんありました。特にずっと雨が降らなかつたり今日のようにずっと雨が降り続いたりするとお米や作物ができない「ききん」になることがありました。その年には、食べるものがなくなって、お腹がすいてたくさんの方が死んでしまうというたいへんなことが起こっていました。その頃、江戸、今の東京に青木昆陽という学者がいました。昆陽は小さい時から勉強が大好きでしたが、勉強は自分のためではなく人を救うためにするものである、今自分がしなくてはならないのはたくさんのお腹がすいて死んでしまう人を救うことだと考えました。そこで、サツマイモはどんな土地でもできるし虫に食べられることも少ないことに着目して、サツマイモの作り方を研究して本を作り、将軍徳川吉宗に差し出しました。吉宗はとても感心して、サツマイモの元になる種芋に昆陽の作り方の本を添えて日本各地に配ってサツマイモを作るように命じました。この時からサツマイモは日本中で作られるようになり、食べるものがなくて苦しんでいたたくさんの方の命がサツマイモによって救われました。サツマイモはその頃、「甘藷」(甘い芋)と呼ばれていたもので、昆陽は「甘藷先生」と呼ばれるようになりました。昆陽の生き方は、人のために自分の力を尽くすことの大切さを教えてくれますね。

今日はサツマイモについてのお話をしました。今の学年も後5ヶ月になりました。特に6年生は小学校の卒業を迎えます。皆さんは、いい学級、いい学年、いい学校にするためにこれからどんなことを頑張りたいですか。自分のために、そして、みんなのために、一日一日を大切に過ごしていきましょう。

